

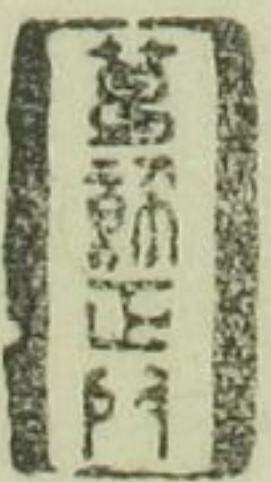
明治十七年

四月廿一日 抄之

正風集



俳諧九世戸序



素嵐杉桃四家者。正風俳諧之魁首也。稱之四大家。又號四家蕉門。而素也者。葛飾隱士。其日菴素堂翁。

之後也。二世三世皆幕府
之士相繼而至。八世綦之
翁。癸卯秋。綦之翁授之嗣
子錦江叟。為其日菴。而綦
阜冬史葛哉等。各有嗣號。

之舉。可謂盛矣。於是天下
有名騷客。贈佳句。賀嗣號。
錦江叟輯錄為一冊子。名
曰能諸九世戶。予聞獻于
金。不如贈一言。此集錦心

繡口。真可寶也。已。天保癸
 卯後九月。三世素仙堂素
 阜識。



我々父素翁の病牀小自門の故老を
 うち法と葛門九世相續の夏秋予り
 申す所ふらるる嗣号のまは人の子と
 千代も阿母と解をぬるなれども其任不
 堪は自らあつた者不阿母と人とも詞代
 こそさるるは是代もあまかきて終不
 此職を肯ふるると知りぬまをあれども
 任まくだをぬれ天のまをまをぬれと
 及ひくまをぬれぬと

雲右務や九世の戸
 小むも 完未ぬ 錦江
 素堂正統
 九世
 其月菴

歌仙

錦江居其日菴九世の座小
忌の事不詳す

慕阜

世小かをる菊や名少の古根より
 遊樂不役者召さる霧を以て
 山ほくま次除りき声
 楷捨木のうまふく青葉を
 秋炮矢場と見え幕張
 冬史
 山橋
 竹嘯
 秀翠

ウ

飴賣の少さ胆^キ惜し^ニやら
 むすねの年次人小吐さぬ
 煤掃小雪袋成松き忘去
 蕪後の菰成ほくく日阿^ニ也
 青黛示そめても光る元天窓
 羽折みしき懶の我北男
 孫敬の門成も叩く青月小
 分列もなくみく屋婦ら泣く
 化指の沙流い次才小秋更て

其曉
 啟直
 李風
 百雉
 慕兩
 山里
 葛哉
 雪腸
 慕風

かき筆も休まず通る川
家古きふい川赤の花う白くや
素性う歌の老も志れをし
雪の松枝のそく永き日小
あつちゆく撞く障の大きは
あつちゆく一窓の生本枝引裂て
うらやとめられ玉の緋織
束の柄杓ては海を酒盞小
は赤この裁さぬ石を見小ゆく

桂露
淇翠
菊山
雪史
松曉
路一
素笠
其石
寒光

志るあふ小笈小雲石の相熟
きさもあふむ 松立る 比
得意場へ早候ねくる一と車
むき子小成り仕出さ身代
松江の奥より儼の夕月扱
甘蔗細小 阿まき 秋風
霜降もあきうぬ 雪の不二
よん寺指の才子も 幸 福
本陣の給仕ハ茶亭城をひてゐて

逸磨
松唯
冬昇
素行
蘆洲
蒸峨
木我
其雲
阜月

三不結の目より川あり 剝
我尊
有計
執筆

○

世に班荆の因あり 甚日菴の
嗣号代筆也

構よく志す所
冬う 萩中 一 末
太白堂
孤月

葛師蕉の一位の彦小

あつめる楯の何る 一とあらはれり
白兔園
宗瑞

祝九世其日菴嗣号

沈空やりのゝあうも 秋のす
雪中菴
権伝

その白鹿九世小嗣

懐らねて獅子の彦小はくふん
柳菴
園翁

枕葉庵ゆいひかり
舎の嗣号代筆

結ひ末を恒のふたへ 冬拵
桂翁

叔代連綿するか門の棟梁ふ
まじりたる時

甘きもの及もゆくや舌車の音

青谷

父とて師といひまき廿日の号代
嗣は葛の棟梁ふまじりたる時

葛原や古きひしき木拵

青嶂

夜の後のむらあし白ふ拳うか

衣山

か門の棟梁ふまじりたる時
まじりたる時

りも尚菊ふ視くや世のたむ

其盛

抜出す赤紅葉い仕つき木炭

尚古

菊も打つてけり名の馨しは

桃餘

代々朽ぬ柱の柱や 冬 拵

菜阿

星くはてまきりぬ 夕 帯

曾云

礎の流石もさう次 赤きり

晋客

志く梅のふく 徒穂の冬紙吹

蘭山

○
神江使代九世廿日菴のふ
まじりたる時

花も実も懐ふ有り 冬 栲 有計
 植はる松の石や 秋の庭 藜阜
 先達やゆめかたしと名取川 冬史
 此川志守と頂白と 秋の不二 淇翠
 其色もゆめの中 柳のふ 葛哉
 出来秋やかたしと 野田の儀 蘆洲
 といふ親ふいよと 似る 木我
 蘭の香や床く 赤と一と 竹栗
 芳とゆめを 赤の紅葉と 松曉

九字系 自 阿つき 菊の 匂ひ 路一
 日小てるや 其徳 栲の ちみち 山橋
 何処ゆく 老る みのや ちみち 藜雨
 十五夜 不 つきと ちみち 後の 月 雪史
 露も 不 加の 堂と ちみち 其曉
 きり 晴や 足 何と ちみち 松の色 松唯

九字系 八世の 嗣子 として
 其 傳 不 其 色 ちみち 松の 奥 素行

○

通てよりかゝる知るゝもこのころ

謂徳菴 素雄

九世其日庵の 嗣号成堂一々

表合續

今一秋の未平其日菴嗣号のたり
あり師翁命有りて三世素仙堂を
慕阜豊ふゆは秋史冬史夕の尾
田をりてまゝるあり桂香豊ふ
る一丑の秋白芥芥士の一名
昔あふ改免らぬぬさぬい安ふ

人として評美しく慕阜豊の先号
松曉菴紙松曉ふは伝ふを史
其曉松唯ふ批註の奥史成
ありまゝ小嗣号せむ是成
人として世弘めんらぬ先世集ふ
七巻の表合成何らありねの
悲秋の何や成をより其評い
後登成まゝて偏ふ其功成まゝ小
後史

有聲此結合せや

九世 其日菴 錦江

心は連 須磨の秋

才一

翁をいひけりしも日く小菊うか 三世 素仙堂 藜阜

月やも別れしや満人の袖 山橋

岩笠の敷えりまきま方日けり 其日

怪なるやと木うけ氣をいふ 松緑

来る香の是もあらぬ昔清あり 有計

歌よ満るる圓位ある原し 阜月

才二

四世 夕可菴

松月けあきし川の世残りや氷の音 冬史

まき笛の音の音も言まき 秋 雪史

若武者の盛白ふ月影可 其日

袖小襦子紙さし小三太 松唯

様うし又友波の引けりまき 木我

奥も七糸示折ふこころし 啟直

才三

御不の名残^{カサ}も^{カサ}也^{カサ}も材^{カサ}也

志^{カサ}も^{カサ}茶^{カサ}の馨^{カサ}も^{カサ}也

豊の秋^{カサ}也^{カサ}も^{カサ}也^{カサ}も^{カサ}也

古も^{カサ}也^{カサ}も^{カサ}也^{カサ}も^{カサ}也

嵐^{カサ}も^{カサ}也^{カサ}も^{カサ}也^{カサ}も^{カサ}也

等^{カサ}も^{カサ}也^{カサ}も^{カサ}也^{カサ}も^{カサ}也

二世

素^{カサ}也^{カサ}也^{カサ}也^{カサ}也

葛^{カサ}也^{カサ}也^{カサ}也^{カサ}也

芦^{カサ}也^{カサ}也^{カサ}也^{カサ}也

其^{カサ}也^{カサ}也^{カサ}也^{カサ}也

露^{カサ}也^{カサ}也^{カサ}也^{カサ}也

淇^{カサ}也^{カサ}也^{カサ}也^{カサ}也

桂^{カサ}也^{カサ}也^{カサ}也^{カサ}也

才四

紅葉^{カサ}も^{カサ}也^{カサ}も^{カサ}也^{カサ}も^{カサ}也

赤^{カサ}も^{カサ}也^{カサ}も^{カサ}也^{カサ}も^{カサ}也

碑^{カサ}も^{カサ}也^{カサ}も^{カサ}也^{カサ}も^{カサ}也

肥^{カサ}も^{カサ}也^{カサ}も^{カサ}也^{カサ}も^{カサ}也

一場^{カサ}も^{カサ}也^{カサ}も^{カサ}也^{カサ}も^{カサ}也

表^{カサ}も^{カサ}也^{カサ}も^{カサ}也^{カサ}も^{カサ}也

二世

桃^{カサ}也^{カサ}也^{カサ}也^{カサ}也

松^{カサ}也^{カサ}也^{カサ}也^{カサ}也

蓼^{カサ}也^{カサ}也^{カサ}也^{カサ}也

其^{カサ}也^{カサ}也^{カサ}也^{カサ}也

李^{カサ}也^{カサ}也^{カサ}也^{カサ}也

蓼^{カサ}也^{カサ}也^{カサ}也^{カサ}也

其^{カサ}也^{カサ}也^{カサ}也^{カサ}也

才五

二世 秦星菴

標うねも細の隔ある種まぐさ
 とまほつゝ能き月のよ 涌 雪史
 婉達哉新田娘けく化らせて 其日 素行
 赤飯の炊の延ひぬるふあし 素笠
 明安き朝代中ゝ挿少くあり 冬史
 又一ゝ戸糸花小やを 雪腸

才六

三世 桃葉菴

延ひるそ葛小交るや藪のらし 其曉
 桂の花の中の十五 路一
 吾妹子を懐ふ秋の巻もふし 其日
 こやまゆりの女身も川恋 菊山
 撰集のや定かし 竹栗
 足てゐるうち小育川楮の芽 寒光

才七

六世 今日菴

掛箱小腕のふとをまき小ねうか

松唯

いさを進むるあゆみの秋

其曉

星月秋簾倉山小疾く起て

其日

世ふいさしきま 夏も何りり

暮風

唯あしぬ身とあり 夏の終る

暮哉

玉のうけまけさくみくる庭

茶笑

復外

生涯月影小笠城と川で名を我好中
好むの成をて千里の物とまもる予う
因とりけは二馬園の田子歌をひや
ゆきれいふ素笠の二宮歌をひや
ききしと名成はふ後哉と定先て

三世 馬園

鞍畜尔情の姿見ん 昨の春

後哉

一一 醉送秋 風一月 真

秀翠

然をも能くも人小料理せて

其日

甲子やあハ 夷 溝 とう包

暮峨

黒^ク一^ニ舎^シ 高^{タカ}一^ニ履^シ 行^{ユク}一^ニ猶^シ 疾^{ハヤシ}
赤^{アカ}一^ニ瓦^ハ 瘦^{ヤセ}一^ニ衣^シ 馴^ナ不^ズ 信^シ
我^ガ 崑^{クニ} 曉^{トキ}
我^ガ 崑^{クニ}

わの〜若の一派の
執事小ま〜

枝^エ打^ウや^ヤ 尾^ビの^ノ 泥^{ドロ}ひも^モ 材^{サイ}の^ノ 敷^シ
月^{ツキ}小^コ 候^{コト}の^ノ 玉^{タマ}ふ^フう^ウ川^{カハ}向^ム
推^{オシ}の^ノ 宴^{ウタガハシ}ふ^フその^ノ 中^{ナカ}に^ニ 枝^エの^ノ 宴^{ウタガハシ}や^ヤ
日^ヒの^ノ 息^イや^ヤ 名^ナも^モ 草^{クサ}も^モ 花^{ハナ}の^ノ 涙^{ナミダ}

何^{ナニ}の^ノ 玉^{タマ}や^ヤ 等^{トウ}級^{キウ}の^ノ 中^{ナカ}の^ノ 是^{コト}未^ミ未^ミ 時^{トキ}而^ニ菴^{アン}
時^{トキ}而^ニ菴^{アン} 其^{コト}其^{コト} 石^{イシ}

爰^{ココ}不^レ重^シ史^シなり^ニ 我^ガの^ノ 葉^{エフ}より^リ 出^デて^テ さま^マの^ノ
と^トより^リ 萬^{マン}の^ノ 文^{モン}あ^ハら^ハず^シと^トなる^ル 故^{コト}勤^{チン}め^メ
た^タら^ハむ^ム一^ニ列^{リツ}の^ノ 法^{ホウ}考^{コウ}ふ^フと^トむ^ム不^レ兼^シ茶^{チャ}星^{セイ}の^ノ
号^{ガウ}紙^シ附^{ツキ}添^{ソヘ}せ^シむ^ム幸^{サイ}ひ^ヒと^トれ^レら^ラと^トなる^ル
法^{ホウ}古^コの^ノ 松^{マツ}月^{ツキ}神^{カミ}代^{ダイ}屋^ヤの^ノ 官^{カン}て^テふ^フ云^{クニ}な^レれ^レと^ト
画^エふ^フも^モつ^ツけ^ケば^バ程^{チヨウ}正^{テイ}の^ノ 奥^{ウチ}奥^{ウチ}に^ニま^マと^ト
す^スの^ノ 心^{ココロ}と^トなり^ニ 故^{コト}述^{シュツ}ぶ^ブふ^フん

淋^シ〜の^ノ 及^{ツキ}〜と^トし^シけ^ケし^シ
星^{セイ} 月^{ツキ} 扱^キ
夕^{タチ}可^カ菴^{アン}
冬^{フユ} 史^シ

菊山執筆披香の契

練水舎

暖けや菊の冬も遠く次 芦洲

この舎下ふいけをいひ

我考雪腸其石示也

桃丘菴

其先のりき尋ねる雪の道 木我

素阜叟素堂翁三也

素仙堂の嗣号阿れい

名月小野名系之川中須る浦 其日菴 錦江

冬史叟馬光翁四世

夕可菴の嗣号阿れい

名月小野名系之川中須る浦 松糸川

桂系叟白芥翁三也

葛哉小野の嗣号阿れい

秋い又葛小名系之川中須る浦 松糸川

素阜叟の先号阿れい

二也松曉菴小野

曉や武陵の松も実入里村 向加楼

螢雪の功成アレニ也

素星菴の嗣号阿れい

星影小野もみらけや雪阿れい 全

枕葉菴ハ葦ノ翁の旧号小して葛の
枕の字取用するの根拠ありさね此号故
お續せしむるおの謙譲の光り成候
其候小一棒成さた

候素も月ふたはるふ 枕右席

一名
枕右席

六世今日菴きりしむる
松唯小葛の秘要候

畔の松稻松月せると成小り也

左

野逸翁の旧名候もて号せむる

一馬園候枕毎有牛居素の系
またはり名代後哉とよむる

其も小狩むちうてや 雪の系

又
蓮池

一派の枕等候
ゆきも五子小喰も

諾よー秋も梅の等乞也

左



跋曰此九世の戸の集ハ葛藤十葉抄の
 似て形あるもの此十葉抄ハ五色雲集此
 餘波ありと我々さねい享保文化忠る
 人々の古ねよりさうんあらんふそのは
 うらまも此ときふもむ屋けん阿々
 後世の恐るうねい我々さう不肖哉
 謝しく例の尻戸哉強もこの子我々

筆抄や親木西

似ぬ其風味

天保十四年

九世

其百菴

錦江

癸卯

九月廿四日



Handwritten signature or mark at the bottom left.

